

最勝山 さいしょうざん  
 願誓寺 がんせいじ



本堂外観



本堂内陣

願誓寺のある深谷市は埼玉県の北部に位置し、利根川と荒川に挟まれた人口約十五万人の町です。農業が盛んで、深谷ねぎは特に有名です。商業は江戸期、中山道の宿場町となり、物資の集散地になったことで発展し、工業は明治期に製糸業、煉瓦製造業で発展しました。日本の資本主義経済の基礎作りに貢献した、渋沢栄一（一八四〇～一九三二）の生誕の地でもあります。

さて、願誓寺の開基、宗元法師は俗名を中島丹助といい、滋賀県近江蒲生郡中島村の生まれであり、今から約二二〇年前の江戸寛政年間に深谷宿西島村に移り、商いを始めました。篤信の念仏者であった丹助は、その後得度し、釋宗元と名告り、商いを譲って店の隣りに説教所を設けて布教を始めました。

そして文政七年（一八二四年）、第十九代ご門主本如上人の時に、前ご門主文如上人の御影をいただき願誓寺を起立しました。

御影の裏書には「本願寺前住文如畫像 釋本如 文政七甲申年 武蔵国榛沢郡深谷宿西島村築地坊舎出張道場」と書かれています。

翌年の文政八年（一八二五年）には、親鸞聖人真影、聖徳太子尊形、七高僧圓像をいただいております。寺院としての形が整ってきたと思われま。蓮如上人の御影は平成十年（一九九八年）の五百回遠忌を縁に平成十三年（二〇〇一年）にいただきました。

起立より約三〇年後の安政二年（一八五五年）、懇意だった寺院より寺領を譲り受けて現在の地の田谷に移りました。現在の本堂は明治五年（一八七二年）に建立されたものです。

また、親鸞聖人真影、聖徳太子尊形は昭和四〇年（一九六五年）、深谷市指定文化財に登録されています。



文如上人御影裏書



文如上人御影